

氏 名	劉 綺 莉
生 年 月 日	
本 籍	中国
学 位 の 種 類	博士（経済学）
学 位 記 番 号	社博甲第 100 号
学位授与の日付	平成 20 年 3 月 22 日
学位授与の要件	課程博士（学位規則第 3 条第 3 項）
学位授与の題目	農民工における貧困問題の研究 A Study of the Poverty of Peasant-labors
論文審査委員	委員長 横 山 壽 一 委 員 伍 賀 一 道, 井 上 英 夫 石 田 道 彦, 弁 納 才 一

## 学位論文要旨

本論文の課題は、農村から都市部へ流出してきた農民工の問題を対象として、彼らの労働と生活過程における貧困問題を総合的に捉えることにある。具体的には、農民工が都市社会の生活で抱えている様々な貧困問題について、その形成過程及び実態を明らかにするとともに、彼らの貧困問題が中国の貧困問題において占める位置を検討する。さらに、このように多様化した貧困問題に対応する包括的な貧困対策を提起する。

農民工の貧困問題を取り上げるのは、以下のように、中国の貧困問題の特質を象徴的に示しているからである。

第一に、農民工の貧困問題は市場経済化による経済発展の加速と社会制度の不備の間の摩擦が深化したことから生じている。市場経済化によって顕在化した余剰の農村労働者は、農村部の貧困からの脱却と都市部の需要から、都市へ流出していった。彼らは都市社会の経済成長を支えているにもかかわらず、都市労働者と同じ待遇は享受できていない。逆に彼らは都市社会の資源を享受する権利が与えられず、社会保障や生活保障の構築から排除された状況におかれている。都市部の経済成長と市民生活に今や欠かせない存在となった農民工たちが貧困問題に陥っている最大の要因は、経済発展のもとでの経済制度と社会制度のずれによる摩擦にある。

第二に、農民工の貧困問題は都市社会における社会的排除として現れている。この社会的排除の特徴は「目に見える」形から「目に見えない」形（労働から生活）へ変化していることである。

農民工の形成過程に伴い、建国以後の戸籍制度の実行とその延長は制度的に「目に見える」形で現れてきた。2003 年、農民工政策の転換により、これらの労働規制は撤廃され、名目上はなくなったが、実質的にはなお続いており、農民工の就労実態はあまりに変わっていない。労働面では見えにくくなった社会的排除も、農民工の生活過程には明確に現れており、大きな影響を与えている。その影響は農民工の余暇時間、健康対策、住宅問題、社会保障などの様々な生活過程に及び、ライフステージに多様な困難を与えている。逆にこうした生活リスクをもっているからこそ、劣悪な労働条件であっても拒否することができないという結果を招いている。

第三に、農民工の貧困問題は農村貧困と都市貧困及び絶対貧困と相対貧困の共存形態である。いわゆる農民工は大部分の都市の貧困者と同様に、低収入、不安定就労というリスクを抱えているだけでなく、彼らに対する生活保障がほとんど整備されていないため、都市の貧困者以上に劣悪な労働と

生活を強いられている。

第四に、農民工の貧困問題は貧困の世代的再生産の性格をもっている。つまり労働と生活における社会的排除が農民工の貧困問題をもたらすだけではなく、彼らの子どもにもリスクを背負わせ、経済的、制度的排除の理由によって失学、不登校を生み、将来、再び農民工と同じような窮境に陥る危険性を高めている。

本論文は、農民工の貧困問題に対する以上のような位置づけに基づいて、彼らの貧困実態と問題点を分析し、現代中国（都市）社会における貧困問題の特質を解明する糸口とする。

論文の全体は、序章、第一章「貧困問題の歴史形成過程」、第二章「農民工の形成過程、定義と基本的特徴」、第三章「農民工の労働・生活に関する貧困実態の事例調査」、第四章「農民工における貧困の世代的再生産」、第五章「農民工の貧困問題の特性とその解決策」から構成されている。

第一章では、現代中国の貧困問題を形成してきた歴史的背景を明らかにした。まず建国当時から抱えていた大規模な貧困状況を辿り、農村貧困と都市貧困の形成要因と特徴をそれぞれ分析した。その中で、中国における貧困、貧困人口、貧困ライン等の基本的定義とその変遷を、経済発展や社会背景の変化と関連させて総合的に整理した。

第二章では、農民工の流出地（農村）と流入地（都市）における社会的背景と経済要因の側面から農民工の形成過程の背景を整理し、農民工の定義を述べた。そのうえで、全国の調査データを用いて、農民工の基本的特徴を明らかにした。また1990年代に行なわれた経済発達地域のいくつかの調査研究結果を比較しながら、農民工の労働実態及び問題点を把握した。

第三章では、農民工に関する政策展開過程を述べ、農民工全体の問題を概観した上で、地域の調査データや事例の分析を用いて、農民工の貧困問題を労働と生活の視点から総合的に捉え、その実態と性格を明らかにした。具体的には、第一は、武漢市の農民工の労働と生活実態を総合的に分析することを通じて、中国の地方都市における農民工の貧困実態を明らかにした。さらに、こうした貧困実態を構造的に分析し、労働と生活内容の循環的、相互的性格を明らかにした。第二は、「社会的排除」が農民工の貧困問題の根源であることを明らかにした。名目上の排除である戸籍制度や各労働規制は緩和あるいは撤廃されつつあるが、農民工における低賃金、3k労働と劣悪な生存環境が生みだされている。農民工は都市部の公共的資源或いは社会的資源から実質的に排除されている。このような「社会的排除」が農民工の貧困問題の原因でもあり、結果でもあることを明らかにした。最後に、排除されてきた農民工の「社会的包摂」を促進するために包括的生活保障政策の構築が求められていることを提起した。

第四章では、前章で論じてきた農民工の貧困問題に基づき、貧困の再生産という視点から農民工の次世代の教育問題を取り上げ、彼らの子どもたちが再び貧困に陥る可能性を検証した。この章では主に農民工の子ども教育問題とその実態分析を通じて、農民工の貧困問題は彼ら自身の労働と生活の面の貧困だけではなく、子どもたちの教育問題にも一層深刻に現れていることを明らかにした。

第五章では、中国の貧困政策を整理し、農民工の貧困問題の解決策について分析した。具体的には、農村貧困と都市貧困に関する貧困対策の展開と問題点を踏まえ、農民工の貧困問題の特性を明らかにし、これらの貧困問題に対して、農民工の貧困問題を解決する包括的生活保障政策の構築を検討した。

本論文の意義は、以下の点にまとめられる。

第一は、本研究では正確に農民工の貧困問題を捉えるため、農村貧困と都市貧困の貧困ラインや最低生活保障制度の判断基準からではなく、労働と生活の側面を総合的に分析する手法を用い、労働から生活へ、生活から再び労働へと及ぶ貧困の循環的性格を社会的排除による多様な貧困問題として捉えることによって、貧困指数だけでは十分把握できない農民工の貧困実態を総合的に明らかにしたことである。

第二は、農村貧困と都市貧困、絶対的貧困と相対的貧困の共存とその新たな形態と実態を検証し、共存形態による貧困問題の構造や特性、解決策への課題を明らかにし、農民工の貧困問題に対応でき

る包括的生活保障政策を提起したことである。この政策は、最低生活保障制度の整備、公的就労指導や職業訓練の設立、社会保険システムの構築、農民工の子どもの教育権利の徹底的制度保障の四つの柱を含む総合的貧困対策である。子どもから農民工本人まで、労働から生活までを総合的に対象とする貧困対策の提起は、農民工の貧困問題の解決だけではなく、将来的には中国の農村貧困と都市貧困の解決策としても意義があると思われる。

## **Abstract**

The purpose of this dissertation is to study the problems faced by peasant-labors in the big cities of China. Specifically, the study shows the poverty and low quality of life of these labors in the cities, and identifies the special features of poverty in China.

With the acceleration of the China's economic reforms, the problems of peasant-labors are becoming worse as a result of the aggravation of the internal frictions between development and existing imperfections in the social system. Peasant-labors are not only living a hard life with low income and unstable employment, just like the urban poor, but they also suffer from the lack of public resources such as medicine, housing, and education. This double-layered poverty is what characterizes the current problem of poverty in contemporary China.

## 論文審査結果の要旨

本論文は、中国の農民工が置かれている実態の分析を通して中国における貧困問題の特質を把握するとともに、その解決への方向性と政策的課題を明らかにすることを試みた論文である。

具体的な分析は以下のように行われている。まず序章で、先行研究について、中国における貧困研究および農民工に関する研究を中心に整理し、農民工に現れた貧困は農村の貧困と都市の貧困の両面をもつにもかかわらず、そのことが本格的には分析されておらず、とりわけ都市の貧困からは対象にすらされていない研究状況を明らかにしている。次いで、第1章では、あらためて中国における貧困問題の歴史的形成過程を、農村および都市についてそれぞれ分析し、それを踏まえて中国における貧困構造とそこにおける農民工の貧困問題の位置を明らかにし、第2章で農民工の形成過程とその特質を戸籍制度との関係を中心に整理したうえで、それらを踏まえて第3章で、自ら実施した農民工に対する労働・生活実態調査および関連する全国調査をもとに、農民工の労働と生活の実態を、賃金、労働時間、労働契約、休暇、余暇生活、医療と健康状況、住宅事情、こどもの教育、社会保障の加入状況などについて明らかにし、農民工が都市で働き都市の生活に不可欠な役割を果たしているにもかかわらず、農村戸籍ゆえに都市では社会的に排除された状況に置かれていること、その点こそ農民工が抱える貧困問題の重要な特徴であることを析出している。第4章では、あらためて農民工の子どもたちの教育問題を、都市で暮らす子ども（流動児童）と農村に留まっている子ども（留守児童）の双方を対象に検討し、この問題が農民工における貧困の世代的再生産をもたらし深刻な問題を孕んでいることを明らかにしている。最後の第5章では、従来の貧困対策とその問題点を分析したうえで、農民工の貧困問題の解決には包括的生活保障政策が不可欠であることを提起し、その柱として最低生活保障制度、公的職業訓練、社会保険システム、子どもの教育保障の四つを挙げ、それらを通じた生存権保障の実現こそ問題解決の最も重要なポイントであることを指摘している。

審査における本論文の評価は、以下のとおりである。まず、積極的に評価できる点として、第一に、これまで関心を持たれながら現象記述的なレベルにとどまっていた農民工の問題を、構造的に捉える視点と方法を提起していることである。

第二は、農民工の貧困問題を、農村の貧困と都市の貧困の両面を備えていることを明らかにし、そのことによって、農民工の貧困問題が中国における貧困問題の構造的な特質と結びついた問題であることを明らかにしたことである。

第三は、これまで実施されてきたいくつかの実態調査だけでなく、労働と生活を総合的にとられる独自の視点に立った独自の調査を行い、農民工の労働・生活実態をより具体的に明らかにするとともに、その貧困の実態が都市における社会的排除によるものであることを析出し、中国における現代の貧困研究に対して社会的排除という視点からの分析の必要性和有効性を明らかにしたことである。

第四は、農民工本人のみならず彼らの子どもの問題にも視野を広げ、子どもの教育問題を貧困の世代的再生産の問題という視点から分析することによって、農民工の貧困問題の深刻さと社会的影響に対する新たな側面を浮き彫りにしたことである。

第五は、農民工の貧困問題解決が中国における貧困問題解決にとってもつ特別な意義を明らかにするとともに、労働、生活、教育にわたる包括的な生活保障の方向を提起したことである。

審査においては、同時に、いくつかの課題も指摘された。第一は、わが国の貧困研究において用いられてきた絶対的貧困と相対的貧困の概念と、中国における貧困研究の中で用いられてきたそれらの概念との区別と関連が明示的には示されておらず、ややわかりにくいこと、第二は、貧困ラインからみた都市の貧困と農村の貧困の相違と両者の関連、および両者の貧困ラインから見た農民工の位置について、一応の整理はされているが、なお精緻化の余地があること、第三は、包括的な生活保障の意義をより明確にするためにも、政策のより具体的な内容を整理し提起する必要があること、以上である。これらは、論文を一層の精緻化する上での課題として指摘されたもので、論文の積極的な評価を

損なうものではない。

審査委員会は、以上の点から、本論文を全員一致で合格と判定した。

なお、本論文の主要な内容については、第 113 回社会政策学会において発表が行われており、積極的な評価を受けたこと、また、『社会環境研究』『人間社会環境研究』および社会保障関連の雑誌等において掲載され、専門領域を同じくする研究者からの積極的な評価を得ていることを申し添えておく。